

平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 桂 太郎 1847～1913年 》
一軍制改革に貢献し、首相として日露戦争を戦った軍人政治家一



軍事上百般之改良意見

(登録番号：陸軍省一日清戦役雑-M28-15-123)

桂太郎大將はドイツ留学の後、明治 7 年 1 月、大尉として陸軍に奉職しました。その後、第 3 師団長として日清戦争に出征するとともに、台湾総督、陸軍大臣等を歴任しました。この史料は同大將（当時中将）が日清戦争から凱旋（明治 28 年 6 月）した後、参謀本部に提出した「軍事上百般之改良意見」です。本書には日清戦争における教訓から編制、武器、被服及び装具等について様々な改良意見が述べられています。特に戦闘に直接影響を及ぼす武器については、「鴨緑江ノ戦以来・・・射程ノ短キ為メ実ニ遺恨ヲ吞シ事其ノ幾回ナルヲ知ラス」と強い調子で「火炮威力（射程）ヲ増大セシムル事」を求めています。



露国ノ軍事的行動ニ関シ上聞ニ達シタル露軍行動一覽図

(登録番号：参謀本部一雑-M37-10-188)

桂大將は陸軍大臣を務めた後、明治 34 年 6 月から伊藤博文の後を受けて内閣総理大臣に就任し日露戦争を戦いました。この史料は日露戦争が開始される直前の明治 37 年 2 月 1 日、参謀総長の大山巖大將がロシア軍の現状について明治天皇に伏奏した際、桂内閣総理大臣に内牒した「露軍行動一覽図」の写しです。同図には日本、ロシア両軍の行動が「赤色隊標ハ露軍」、「青色隊標ハ日本軍艦隊」、「矢ノ方向ハ運動中若シクハ運動ヲ欲スル方向」として詳細に記載されており、当時の日本軍の状況及び日本が開戦当初に掴んでいたロシア軍の状況を知る上で貴重な史料です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。
詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画室
専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp